

「上野千鶴子が聞く小笠原先生、  
ひとりで家で死ねますか? / 上野千鶴子 / 小笠原文雄」

ISBN : 9784022619310

定価 : 726 円 (税込) 発売日 : 2018 年 6 月 7 日

A 6 判並製 280 ページ



朝日文庫のホームページより  
\*\*\* 家族がいようがいまいが、家で死にたい  
今、自分のいるひとり暮らしの住まいで、要介護状態になったらそのまま介護を受け、末期になったらそのままそこで死んでいく。そのために必要なことはなんでしょう。

「在宅ひとり死」を願うおひとりさま代表の上野千鶴子が、高齢者の在宅死を長年支えてきた小笠原先生に、67 の質問をします。\*\*\*

きょうと福祉倶楽部は多くのおひとり様や「こんな状態では家では無理」と言われた人たちを最期までご自宅で過ごして頂ける実践を続けてきました。

もちろんその実践で「あのときこうしておけば」という事例もありましたが、大多数の方が穏やかに静かに旅立って行かれました。この本を読んでひとり一人の最期の「時間を思い出しました。その中の一人だったちかよさん。

病院で病室で大きな声を出しそれを抑えようと薬で寝たきりにさせられた末の退院でした。入院した頃は大きな声を出す元気があったのですよ。

ストレッチャーにのせられ一人で暮らす家に帰ったちかよさん。まだ灯りもついていない薄暗い部屋をゆっくり見渡して「帰って来たんやなあ」と。

そして退院からの数週間を訪問して下さる医師、ホームヘルパーや訪問看護師の力で最期まで家で過ごされました。その表情はとても穏やかなお顔でした。

ベッドを置いたら腰掛ける場所にも苦労した狭い、狭い部屋で生活保護を受けて最期まで一人で暮らしたハルさん。

寂しいときは妹さんの声を電話で聞き最期まで過ごしました。

彼も穏やかに妹さんの傍で人生を閉じました。

この本には在宅での最期を迎えるための知恵が満載です。

最後に本書から引用します。

Q34 どんな手立てを尽くしても自分の親には1分1秒でも長く生きてほしい、とってしまうのは、子供の側のエゴイズムでしょうか。

A34 そうだと思います。間もなく亡くなられるであろう、という状態からでも、点滴などの治療を目一杯すれば数日から数週間は延命させられるかもしれません。でも、そうされることで親は自然な「死に時」を奪われ、心身ともに苦しむことになりかねません。刀折れ、矢尽き、万策尽きての

「敗戦死」となります。

わたしたちは高齢者の生は良きゴールをめざしたものとして  
支援しなければと考えています。



便利な道具-スライディングシート

ベッドで身体が動かない人を動かすとき力任せにやっている人はいませんか？

皮膚を「引っ張る」介護は床擦れ形成の原因にもなります。

また介護をする側の腰痛の原因でもあります。

そんな介護は介護をする側にもされる側にも負担です。

そんな介護をしなくても良いのです。

たった一枚の「滑る布」、スライディングシートさえ準備すれば。

この商品は介護保険でのレンタルもありますし、購入しても比較的安価なものです。働く人と利用者の負担を考えるヘルパー事業所ではヘルパーは基本的に使いこなせません。もちろんそんな難しい操作はいりません。ご家族でも十分に利用可能です。

こちらに使用方法が動画で紹介されていますので興味がある方はご覧下さい。

インターネット環境がない方は当事務所のヘルパーにお尋ね頂いてもかまいません。

お気軽にどうぞ。

<https://job.minnanokaigo.com/channel/bed/no4>



有限会社 おとくに福祉研究所

きょうと福祉倶楽部

〒617-0824

長岡京市天神 4 丁目 7-12 ハイソ東館 101 号

TEL 075-958-2560 FAX 075-957-2808

E-mail info@fukushi-club.com

きょうと福祉倶楽部では皆様からの原稿を募集しています。お気軽にお問い合わせください